

B 鑑賞

題材名「かいて感じる芸術家の心」…〈鑑賞〉 小学校第5学年及び第6学年

【題材の目標】

- ・それぞれの画家の作品に関心を持ち，作品のよさや面白さを自分の思いを持って，味わおうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・作品から感じたことを基に作品の続きを思い付いたり，かきたいものを考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・作品から感じた形や色，イメージなどを基にして，作品の続きや広がる世界などの表し方を工夫している。 【創造的な技能】
- ・作品に対する見方を広げながら話し合い，作品の表現の面白さを捉え，よさを感じ取っている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態（例）】

- ・この時期の児童は，一人一人の感じ方や見方などが育つてくると同時に，物事を他者や社会的な視点から捉えるようになる。このため，自分の体験したことを伝えることで他者と体験を共有したり，自分の認識を広げたりすることができるようになる。鑑賞活動では，形や色などから分析的に見たり，意図や気持ちなどを読み取ったりするなど，作品などを深く捉えることができるようになる。また，社会的な視野の広がりから我が国及び諸外国の美術作品などに対しても親しみをもち捉えることができるようになる。

【親しみのある作品（例）】

- ・「親しみのある作品」とは，子どもたち自身の作品，我が国や諸外国の親しみのある美術作品，暮らしの中の作品など，高学年の社会的，文化的な関心の広がりに対応した対象を示す。その対象として，ピカソ，ゴッホ，スーラの作品を選んだ。ピカソのキュビズムの表現，ゴッホの渦巻いたタッチ，スーラの点描などの技法は，子どもたちを引き付けることができ，創造力を働かせながら鑑賞することができる題材である。

【言語活動（例）】

- ・画家の作品を続けてかいたり広げたりする活動を楽しむ過程で，友達の感じ方に共感するとともに自分の考え方を確かにする活動にしたい。表現する人の思いや心の揺れによる表し方の変化，時代や地域の違いによる表現の意図や特徴などについて関心を持ち，話し合えるようにしたい。

【発想や構想の能力，創造的な技能，鑑賞の能力などの価値（例）】

- ・子どもたちの発想を広げるため，複数の作品を与えた中から選択して鑑賞させたり，続きの世界や広がる世界を考えさせたりするようにしたい。作品の技法，色彩，モチーフの形，主題を感じながらかくことにより創造的な技能の力を高めたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

(「B鑑賞」を独立して扱う際配慮する必要があること。)

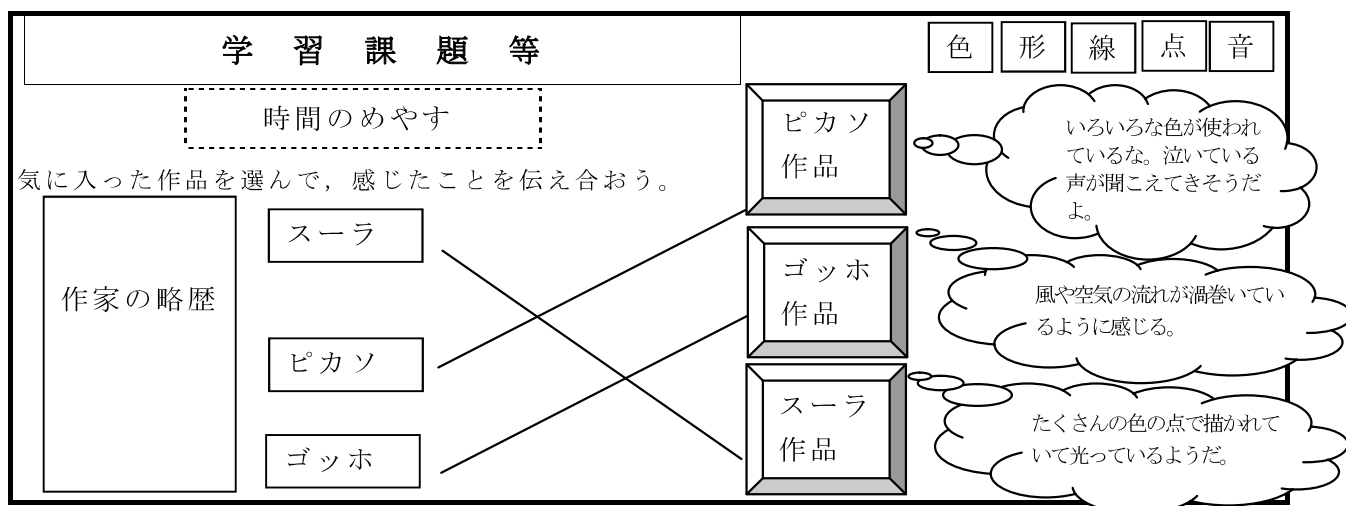
一つは、児童がよさや美しさなどについて関心をもって見たり一人一人の感じ方や見方を深めたりすることができるような内容であること。

二つには、鑑賞する対象は発達の段階に応じて児童が関心や親しみのもてる作品などを選ぶようにするとともに、作品や作者についての知識や理解は結果として得られるものであることに配慮すること。

三つには、児童が対象について感じたことなどを言葉にしたり友人と話し合ったりするなど、言語活動の充実について配慮すること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P59より)

【板書例】



【準備物の例】

- ・ピカソ、ゴッホ、スーラの作品
- ・色ペン 水彩絵の具 クレヨン 色鉛筆 など

発展的な学習の内容例

【映像メディアの活用】

映像メディアの活用については、中学校学習指導要領解説美術編のP78に記載されている。小学校から写真、コンピュータなどの活用を図ることも効果的な方法である。例えば写真では、何枚かの写真を組み合わせる工夫をすることができる。また、コンピュータでは、何度でもやり直しができたり、取り込みや貼り付け、形の自由な変形、配置替え、色彩替えなど、構成の場面での様々な試しができたりする。こうしたことを生かして鑑賞する作品の広がる世界や続きの世界を表現したり、色彩や配置を換えて感じの違いを味わったりすることも考えられる。

【授業の具体例】 4 時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・全体で感じたことを伝え合う。 ・作家の略歴などを簡単に話す。 ・気に入った作品を選んで 3 人～4 人くらいのグループで感じたことを伝え合う。 	1	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの画家の作品に関心を持ち，作品のよさや面白さを味わおうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漠然とした言葉や表現であっても，子どもの第一印象を大切にする。 ○出てきた感想やつぶやきを色や形等のキーワードで黒板にまとめていく。 ○テーマを「色」「形」「技法」に設定することで，鑑賞の仕方に戸惑いを感じている子どもへの支援とする。 ○関連した作品も用意し，一人一人の子どもが鑑賞することを楽しむ時間を確保する。 ○思いを広げることに戸惑いを感じている子どもには，友達と関わり合う中で見方を広げることができるよう支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ作品の世界を広げる。 ・作品からコラージュ（貼り絵）のようにして周囲に世界を広げる。 	2	<p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品から感じたことを基に作品の続きを思い付いたりかきたいものを考えたりしている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品から感じた形や色やイメージなどを基にして，作品の続きや広がる世界などの表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ作家の違う作品をつなげたり，似た技法や色彩などを用いて新たな作品をかいたりすることも認める。 ○表現方法に戸惑っている子どもには，それぞれの作品の特徴を捉えさせ，それを基に表現の幅が広がるように支援する。 ○素早く仕上げる子どもには，別の作家の技法の特徴を見付けたり，真似したりするように声を掛け，時間を有効に使えるようにする。

<p>・ 友達の作品から感じた表現のよさや面白さを話し合う。</p>	<p>1</p>	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品に対する見方を広げながら話し合い、作品の表現の面白さを捉え、よさを感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品から何を感じ、なぜそのように世界を広げたのか互いの工夫を聞き合い、鑑賞を深めることができるようにする。 ○ これまでの鑑賞活動を振り返るために、図工ノートを用いる。 ○ 教室内や校内の適切な場所に作品を展示し、平素の学校生活の中でも鑑賞できるようにする。
------------------------------------	----------	---	---